

漁海況 長期予報

令和8年3月31日発行

三重県水産研究所

TEL：0599-53-0016

FAX：0599-53-2225

2026年4～7月までの予測

3月23～26日に北海道から鹿児島県までの太平洋側の各都道県水産研究機関および水産研究・教育機構が海況・漁況に関する情報を持ち寄り、今後の見通しを立てましたので、その概要を紹介します。

【予測対象】海況および熊野灘のマイワシの漁況

海況

黒潮はN型基調で推移するものの、一時的にB型やC型となる見込みです。

熊野灘沿岸の水温は「低め」～「平年並」基調で推移し、暖水波及時には「やや高め」～「かなり高め」となることがあります。

【解説】3月下旬現在、黒潮は潮岬に接近した後、熊野灘～遠州灘沖の33°N付近を東進した後、八丈島北寄りを通じた後、北東方向へ流出しています（N型）。

予測期間中、黒潮の流路はN型基調で推移するものの、一時的にB型やC型となる見込みです。熊野灘は、黒潮の接近や黒潮系水の波及に伴い、暖水に覆われる可能性があります。

熊野灘沿岸の水温は「低め」～「平年並」基調で推移し、黒潮からの暖水波及など、暖水の影響が強まった際には「やや高め」～「かなり高め」となることがあります。

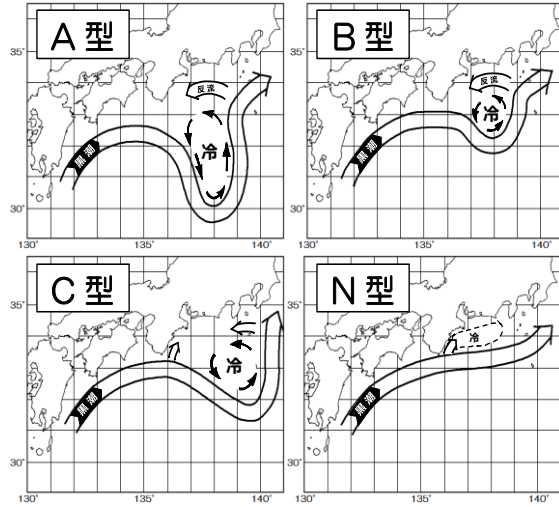


図. 黒潮流路の型

マイワシ

14cm以上の1歳魚を主体に、来遊量は前年を上回るでしょう。

【解説】2025年12月～2026年2月の中型まき網（贄浦、奈屋浦、錦、紀伊長島）による漁獲量は2,287トン（前年同期7トン、過去10年平均3,124トン）でした。漁獲は2月にまとまり、主体は14～15cm（被鱗体長）の1歳魚でした。2025年12月～2026年2月の大型定置網（片田、阿曾、贄浦、早田、梶賀）による漁獲量は6.8トン（前年同期0.7トン、過去10年平均12.4トン）でした。今期の来遊量は、前期の1歳魚の漁獲量が前年同期を大きく上回っていたことから、前年を上回ると見込まれます。

~~~~~ 海況とマイワシ以外は改めて予報を行っていませんが、最新の情報を記載します。~~~~~

## ウルメイワシ

前半は15～20cmの1歳魚を主体、後半は15cm以下の0歳魚を主体に、来遊量は前年を下回るでしょう。

【解説】2025年7～11月の中型まき網による漁獲量は1,385トン（前年同期2,551トン、過去10年平均2,560トン）でした。漁獲は10～11月にまとまり、主体は18～21cm（被鱗体長）でした。今期の来遊量は、7～11月の漁況が前年を下回っていたことから、前年を下回ると見込まれます。

## さば類

マサバは30～40cmの2歳以上を主体に、来遊量は低水準で推移するでしょう。ゴマサバは30～40cmの2歳以上を主体に20～30cmの1歳魚が漁獲され、来遊量は前年を上回るが低水準で推移するでしょう。

【解説】マサバの2025年7～11月の中型まき網による漁獲量は223トン（前年同期20トン、過去10年平均612トン）でした。漁獲は10～11月にややまとまり、主体は20～22cmおよび32～33cm（尾叉長）でした。今期の来遊量は、黒潮大蛇行の解消により来遊条件が好適化する可能性もありますが、資源量は低水準であるため、低水準で推移すると見込まれます。ゴマサバの2025年7～11月の中型まき網による漁獲量は1,844トン（前年同期736トン、過去10年平均1,189トン）でした。漁獲は9月にまとまり、主体は20～23cmでした。今期の来遊量は、近年ゴマサバ資源量は増加傾向にあるものの資源水準は低水準であるため、前年を上回るが低水準で推移すると見込まれます。

## マアジ

12～21cmの1歳魚を主体に、0歳魚、2歳以上が混じって漁獲され、来遊量は前年並～上回るでしょう。

【解説】2025年7～11月の中型まき網による漁獲量は540トン（前年同期579トン、過去10年平均329トン）でした。漁獲は10～11月にまとまり、主体は14cmおよび21cmでした。7～11月の大型定置網による漁獲量は95トン（前年同期29トン、過去10年平均45トン）でした。漁獲は7～8月と11月にまとまり、主体は7～8月は10～12cm、11月は13～14cmでした。今期の来遊量は、前期の漁況から前年並～上回ると見込まれます。

※ 次回の漁海況長期予報は、7月下旬頃（未定）に2026年8～12月の予報を行う予定です。